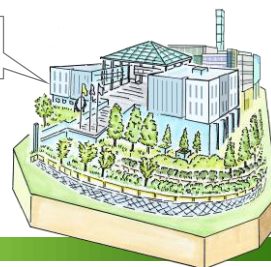


しみんけんきゅうニュース



発行:(公財)千里リサイクルプラザ 市民研究所
TEL 06-6877-5300 FAX 06-6876-0530

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園4-3
<http://www.senri-recycleplaza.or.jp/>

- 【目次】 P2 TOPICS
P3 各チーム活動報告
P4-5 特集(身近な環境を調べよう PT)
P6 主担研究員コラム①
P7 主担研究員コラム②
P8 9・10 月行事予定



第1回受賞作品
(STOP 地球温暖化～コップの氷～)



第5回 (530HERO)

R5.7.15. 環境啓発動画コンテスト 歴代受賞者交流会



第2回 (時代おくれのレジ袋)



第2回 (身近なところからはじめよう
～地球温暖化対策～)



第4回 (Get the stars～ほしをあつめて～)



Web でも参加
いただきました。



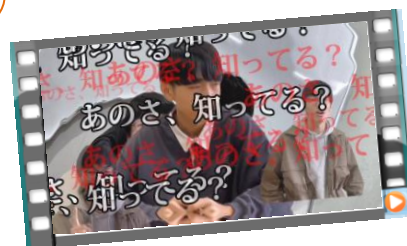
第5回 (食品ロスを減らそう)



第6回 (Gomi No! ~Domino で環境を
伝える～)



第6回 (あかん! マスクのポイ捨て)



第7回 (うんちくと食品ロス)



第5回 (「生ごみ」はもう捨てなくていいよ)

7/15 プラザにて、環境啓発動画コンテストの歴代受賞者交流会を開催しました。これから応募される方々への参考となる有意義な交流会となりました。

注釈：第1回～第7回までの最優秀作品と優秀作品を掲載



TOPICS

環境問題講演会 ～地球温暖化実験クイズ～

サイエンスパフォーマー・すずきまどか氏による実験あり、クイズありでみんなが楽しめる講座でした。子どもの参加が少なかったため、必然的に実験に参加させられた子どもたち、不思議そうにしていたのが印象的で、大人にはどこか懐かしく感じる科学実験パフォーマンスでした。もう少し大人向けの内容でもよかったかな、と思いました。お客様の心を引きつける話術を持っておられ、今後の出前講座などで、子どもたちとの接し方などを学ぶことができました。



(市民研究員 安田勝廣)

くるくる環境スクール第3回講座 ～SDGs カードゲーム～

「ゲットザポイント」のカードゲームを使い4チームに分かれて、楽しみながらSDGsの「Point（要点）」を学びました。私は、このカードゲームのファシリテーターとして初めてのゲームでしたので、緊張して迎えましたが、参加者から「お話がスムーズでわかりやすかった」「自分のことだけ考えていても何ともならないとわかりました。協力すること、話し合うことが必要と分かりました」「奥が深いゲームでした」「アースオーバーシュートデイ」は、ためになりました。」等々感想が寄せられ、SDGsの大切な点を少しでも伝えることができたのではないかと思います。ほっとしました。



(市民研究員 井上道代)

プロジェクトチーム（PT）・アクションチーム（AT）活動報告

市民とお店をエコでつなぐ PT

「食品ロス削減」「プラスチックごみ削減」を主なテーマとして、学ぶとともに行動しています。ふろしきの包み方を動画として編集集中で、広く発信する予定です。また、11月開催予定の「もったいないバザール」に出店するなど、活動の場を広げるべく奮闘中です。令和5年度の第1回吹田市ごみ減量再資源化推進会議に出席しました。

吹田ごみゼロシステム研究 PT

定例会において、主担研究員の金子先生による吹田市第3次一般廃棄物処理基本計画を理解するための連続基礎講座を行っていただいています。今の吹田のごみ問題がどうなっているのか、状況を体系立ててお話ししていただいています。10月7日の市民研究員研修講座においても、全体研修としてご講演いただけたと思います。乞うご期待！

身近な環境を調べよう PT

吹田市内にある池について、暑い中ですが、現地で水質や動植物の調査をしています。顕微鏡でプランクトンの観察なども行っています。また、環境啓発動画コンテストの歴代受賞者交流会に参加し、視聴者に伝わりやすい動画の作り方などを学びました。

SDGs 啓発 PT

これまで環境出前講座において、チーム代表の三枝さんがカードゲームの進行役を行って来ましたが、チームの他のメンバーも進行役ができるように、定例会で模擬出前講座に取り組んで来ました。そして、いよいよくるくる環境スクールにおいて、井上道代さんが初デビューしました。初めてとは思えないほどの落ち着いた進行役を努めていました。

手作りおもちゃと環境 AT

9月・10月はクラブ支援、環境スクールと出前講座もあるので協力して活動していきたいです。吹田市役所への出張展示会と工房3へ、手作りおもちゃに触れて体験してもらえるような展示物を考えています。

紙すき体験と環境 AT

今年度から仲間になったメンバーも環境についてのお話を順番に行い、出前講座もチームワークよく活動できるようになってきました。公民館などへ紙すきの活動を拡げていきたいです。

マイ食器啓発 AT

容器に関する施設見学と実際に活用できそうな食器をリサーチしてみようと検討中です。

外来生物について

市民研究員 岡本睦奥夫

外来生物というと、数年前に話題になったのが、ヒアリやセアカゴケグモなどである。しかし、随分以前からアライグマやアカミミガメ、アメリカザリガニ、ブラックバス、植物ではセイタカアワダチソウやセイヨウタンポポなどがよく知られている。

「身近な環境を調べようプロジェクトチーム」では、2020 年から 3 年間、吹田市の市街地を流れる糸田川的环境について調べた。その結果、ヌートリアやオオキンケイギク、ランタナ、ヤナギバルイラソウなどの外来生物がとて多いことに気付いた。そこで、外来生物とは一体何なのか。私たちは、この外来生物にどのように対応したらいいのかについて考えてみた。

日本に生息・生育する外来生物（人の手によって移動された生物）の数は、2,000 種類を超えとのことだが、農作物や家畜のように私たちの食料として欠かせないものやペットとして持ち込まれたものも多くある。

五箇公一氏（国立環境研究所）によると、古くは縄文時代から大陸との交流があり、スズメは稲作文化とともに、モンシロチョウは奈良時代にダイコンや菜の花などの葉に紛れて大陸から日本に移入された外来種とされる。また、シロツメクサは 1846 年にオランダから陶器を梱包するのに詰め物・緩衝材として輸入され、日本に定着したとされる。

これらは長年にわたって日本に定着し、なじみ深いものになっている。

ところが、現代社会では、これまでと比較できないほどのスピードで人や物の移動が行われている。

また、環境破壊、密猟や乱獲による絶滅危惧種の増加、伝染病の蔓延など、今後どのような

事態が待ち受けているかわからない状況である。

人の生活は、生態系のバランスが保たれることによって維持されているのである。

生物の多様性を維持するため、1992 年、ブラジルでの「地球サミット」では、温暖化を防止するための「気候変動枠組条約」とともに、「生物多様性条約」が採択された。日本でもこの条約の規定に基づいて「生物多様性国家戦略」が策定されている。

また、毒を持っていて、刺されたりする危険があったり、農作物に被害を与えたり、近縁の在来種と交雑して雑種を作ってしまう、元々の生態系が崩れることにつながってしまう外来生物を規制するため、平成 16 年に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（法律第七十八号）」が制定された。

規制対象となる特定外来生物としては、ヌートリア、アライグマなどの哺乳類、ソウシチョウなどの鳥類、アカミミガメなどの爬虫類、カダヤシ、オオクチバスなどの魚類、オオキンケイギクなどの植物など 10 類、157 種類の生物が指定されている。

さらに、これらを含め、環境省と農林水産省において、外来種についての関心と理解を高め、適切な行動を呼びかけることで、外来種対策の進展を図ることを目的として、平成 27 年 3 月に幅広く国内由来の外来種も対象とした「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」がまとめられている。

このリストでは、定着を予防する外来種（101 種類）、総合的に対策が必要な外来種（310 種類）、適切な管理が必要な産業上重要な外来種（18 種類）の 429 種類が選定されている。

これらの外来種についての「外来種被害防止行動計画」では、①入れない ②拡げない（増やさない） ③捨てない（逃がさない・放さない・逸出させない）という三原則に基づいた対応が求められている。

その他、「世界の侵略的外来種ワースト 100」や「日本の侵略的外来種ワースト 100」が選定されている。

また、法に基づいて、大阪府など地方自治体においても、その地域の状況に応じて特定外来生物に関するアラートリスト等が策定されている。

これらをすべて知ることは難しいが、先に記した、「外来生物被害予防三原則」を守ることによって本来の自然環境が維持されるよう努めなければならない。

人間などに危害を加えるセアカゴケグモやヒアリなどを見つけた場合、アライグマで被害を受けた場合などは、府や市などに相談し駆除することが必要である。

また、鉢植えや庭で花を育てる場合、オオキンケイギクは勿論のこと、ランタナやツルニチニチソウなどは外に広がらないよう気を付けなければならない。

さらには、水槽で魚を飼う場合、カダヤシなどの魚種やホテイアオイなどの浮草にも注意を払わなければならない。

今や全国に広がったアカミミガメやアメリカザリガニについては、2019 年に環境省によって「アカミミガメ防除マニュアル」が策定され、また、2022 年に「アメリカザリガニ対策の手引き」が策定された。

生態系や農業に被害が及んでいる場合は、これらのマニュアル等を参考に駆除することが必要である。

最初に述べたように、どんな外来種も時間が経てば、「在来種」となることと思うが、かつてない速度で自然環境の破壊や国際的な交流が行われることによる生態系の変化は予測できない状況にある。

さらには、外来種が繁殖してきた一因として地球温暖化の問題もある。本来なら冬の寒さを生き延びられない外来生物が温暖化により生き残り、在来種を脅かすことにもつながっている。

私たちは、今回、糸田川の環境観察をすることで、外来生物に対する、法による規制や被害を防止するための対応の内容について初めて知った。また、糸田川のようなコンクリートでできた小さな河川でも、土砂が堆積することにより、生き物の多様な生息空間ができることに驚いた。

牧野富太郎は、山本周五郎がインタビューしたとき、「雑草」という言葉を口走ったところ、「きみ、世の中に『雑草』という草は無い。どんな草にだって、ちゃんと名前がついている」となじったそうである。また、牧野の自伝には「植物は人間がいなくても、少しも構わずに生活することができるが、人間は植物がなくては一日も生活することができない」とあるそうだ。

身近な環境を観察することで、現況を知ることにより、生物の多様性を保全するためにどのように向き合うのか、雑草という植物やそこに飛び交う生き物を観察しながら思うところである。しかし、現代社会では、その重要性に気づくことは大変難しいことのように思われる。



QR コード拡大

焼き鳥一本を買う方法は

主担研究員 土屋正春

揚げ物売場でのごきごと

プラスチックごみの大半は各種の使い捨て容器包装材料で、特に毎日の買い物を通じて家庭で扱う食品関連の包装材は大変な量になっています。プラザに集う皆さんのことから、日頃から気になっているに違いありません。

ここでは天ぷらやアジフライ、焼き鳥などいつも人気の揚げ物売り場でのきごとを考えてみることにします。

入れ物には課題が潜む

私自身が立ち寄る近所の店では、てんぷらやフライなど別々に並べられた揚げ物を客が選び、その手前に重ねられたプラスチック製の入れ物に詰めるといごく普通の買い方でした。何をどれだけ買うかは客が決めていました。しかしこの入れ物はサイズこそ大小あるもののプラスチック製の二つ折りパック容器(以下、プラパック)で、片方をふたにして閉じて、輪ゴムをかけて、という一般的なものです。

少量の揚げ物には大きすぎるプラパックには二つの課題、つまりは a 経費の無駄遣い、と b プラスチックごみの増加、が潜んでいます。a はその事業者の課題、b は社会全体の課題で、こうした大きな二重の背景を一枚のアジフライは負っていることになりますね。

持ち帰り用袋の登場

こうした状況に対応して登場したのが「持ち帰り用袋」で、特に「環境にやさしい」を打ち出しています。実際に写真のように容量が同程度の二つで重さを比較すると 持ち帰り袋が 3 グラム、プラパックは 15 グラムですからごみになる段階では家庭の台所でも自治体の収集処理でもあれこれとざっと 5 倍の差が出ることになります。店にとっては a と b での挑戦で、揚げ物売り場にはこの二種類の入れ物が用意され、客がどちらかを選んで詰めるのです。

客はどちらを選んだのか

この二種類の入れ物の選択に関する積極的な店の説明や案内は見たことがありませんが、いずれかの機会はあったのでしょうか。とはいえ気になっていたのも、買い物ついでに見ていると、何度訪れた際でも手が伸びて利用されていたのはプラパックばかりなのです。

そして今では既にプラパックに詰められた揚げ物しか買えないのです。店の側には食品をそのまま棚に並べるのは感染症対策上避けるべしというような別の観点もあったのでしょうか。だとすれば、持ち帰り袋に詰めて販売するという選択がどう検討されたのか知りたいところです。皆さんはいかがですか？



左が持ち帰り用袋で 3 グラムと軽量。パカッとした確実な開閉感や出し入れなど使い勝手ではプラパックには及ばず、商品の価格が同じなら客はプラパックを選ぶ。

今では持ち帰り袋の提供はなく、右のように一定数が詰められたプラパックで販売されている。焼き鳥一本は買えない。

「中間貯蔵施設」と「地球沸騰化」に思うこと

主担研究員 三輪信哉

山口県上関町が、原発で出た使用済みの核燃料を一時的に保管する「中間貯蔵施設」の建設に向けた調査を受け入れるかどうかで大きく揺れています。

もともと、国の計画では、全国の原子力発電所から出る使用済み燃料棒等は青森県六ヶ所村の「再処理工場施設」に送り、再利用できるウランやプルトニウムを取り出す。放射能を発し続ける高レベル放射性廃棄物などを圧縮し、キャニスターという金属缶に融けたガラスとともに封入し、ガラス固化体とする。それを 30 年から 50 年程度空冷したあと、地下 300m の最終処分場に埋設し、地中管理する。放射能レベルは危険がなくなるまで千年から数万年かかるとも言われています。

もちろん最終処分場適地は未だ見つかっていませんし、「再処理工場施設」は 30 年たった今も完成していません。行き場を失った使用済み燃料棒は今はどうなっているかと言いますと、各原発施設ごとに、巨大なプールに水を満たし、そこに使用済み燃料棒を入れて冷却するとともに放射能の漏出を防ぎます。上関町の中間貯蔵施設では乾式貯蔵が予定されています。

現在、国内で貯蔵されている使用済み燃料は 18000 トンで、国内の貯蔵容量 24000 トンの約 75% を占めていると言われています。こうした事情から、最終処分の目途が立つまで、中間貯蔵施設で保管する。そのための施設建設の調査を受け入れる自治体を国は探す。上関町では調査受け入れて、過疎化の進む人口 2 千人の町に対して 1 億円以上の交付金が町に入る、というものです。

小さな町で起きるこうした議論で心配されることは、平和な町で、意見対立が起きることです。コミュニティに大きなヒビが入り、今後

何世代にもわたって影を落とすことでしょう。

原子炉の耐用年数を 60 年とし、日本はエネルギーミックスの観点から 2030 年には国内で消費される電力の 20～22% を原子力再稼働で賄い、再エネで 22～24%、それ以外を化石燃料でと国は計画しています。だからこそ、中間貯蔵施設建設を急いでいるのです。

国連のグテーレス事務総長は 7 月 27 日、ニューヨークの国連本部で記者会見を開き、「地球沸騰化の時代が到来した」と発言しました。気象庁は連日「熱中症警戒アラート」を発出し、クーラーを常時使って、命を守ることを推奨しています。

「上関町のひとたちは大変だなあ」「温暖化はウソだという研究者もいたけど、温暖化問題もここまで来たか」「きつとどこかの優秀な科学者、技術者が解決策を見つけ出してくれるだろう」「政治家がなんとかするだろう」「世の中には解決できないこともあるから、悩んでもしょうがないし、その時はその時」「そんなことより自分の体調と老後が心配だから、これ以上考えることを増やしたくないし」と他人事としてクーラーにあたりながらニュースを見ている人はさすがにいないでしょう？

いうまでもなく廃棄物問題も快適な消費生活を享受しつつ最終処分場に最終的に押し付けるありかたは同根です。

根源には、我々が求めて止まない快適生活の追求や、文化や社会・経済のありかた、無力感や無関心があります。

まずはこころ熱くたもちながら、沸騰化する頭をクールダウンして、微力なりとも粘り強く力をあわせて考え、社会に働きかけて実行していく、それが市民研究なのだ・・・と、クーラーにあたりながら考えている私です。

研究所 9 月 の 予 定

日	曜	催し	時間 場所	備考	
1	金				
2	土	第6回代表者会議 定例会	13:15～プラザ講義室 15:00～工房3	主担・代表者・事務局/ 身近な環境を調べよう PT	
3	日	定例会&ごみ拾い活動	13:00～工房3	手作りおもちゃと 環境AT	
4	月	休館日			
5	火	定例会	14:00～情報スタジオ	SDGs啓発PT	
6	水				
7	木				
8	金				
9	土	くるくる キッズ環境スクール③	10:00～ プラザ	紙すき体験と環 境AT	
10	日				
11	月	休館日 環境出前講座(クラブ支援)	千一小学校/ 藤白台小学校	手作りおもちゃと環境 AT/市民とお店をエコ でつなぐPT	
12	火				
13	水	環境出前講座(クラブ支援)	吹一小学校/ 山二小学校	紙すき体験と環境AT/ 手作りおもちゃと環境 AT	
14	木				
15	金				
16	土	定例会	10:00～講義室	市民とお店をエコ でつなぐPT	
17	日	くるくるアイデアコンテスト 家具のオークション			●
18	月	休館日		敬老の日	
19	火	休館日		振替休日	
20	水				
21	木	出張展示会(21日～27日)	吹田市役所ロビー	展示受付担当①	
22	金			展示受付担当②	
23	土	休館日		秋分の日	
24	日	くるくるサロン	13:30～工房3		●
25	月	休館日			
26	火			展示受付担当③	
27	水			展示受付担当④	
28	木				
29	金				
30	土	くるくる環境スクール⑤ スクール生との交流	10:00～14:30 プラザ	市民とお店をエコでつな ぐPT/手作りおもちゃと環 境AT/紙すき体験と 環境AT	

研究所 10 月 の 予 定

日	曜	催し	時間・場所	備考	
1	日				
2	月				
3	火				
4	水				
5	木				
6	金				
7	土	環境スクール⑥/ 第7回代表者会議	10:00～11:45プラザ/1 3:15～プラザ講義室2	環境スクール生/主 担・代表者・事務局	
8	日	定例会	13:00～工房3	手作りおもちゃと 環境AT	
9	月	休館日		スポーツの日	
10	火	休館日		振替休日	
11	水				
12	木				
13	金	第3回研究運営委員会	14:00～ プラザ講義室1	主担・執行役員 ・事務局	
14	土	くるくるキッズ環境スクール④	糸田川自然散策	身近な環境を調 べようPT	
15	日	ニュース原稿締切			
16	月	休館日 環境出前講座(クラブ支援)	千一小学校	SDGs啓発PT	
17	火				
18	水				
19	木				
20	金				
21	土				
22	日	くるくるハロウィン			●
23	月	休館日 環境出前講座(クラブ支援)	藤白台小学校	手作りおもちゃと 環境AT	
24	火				
25	水	環境出前講座(クラブ支援)	吹一小学校/ 山二小学校	市民とお店をエコでつ なぐPT/紙すき体験と 環境AT	
26	木				
27	金	第2回 もったいないバザール 実行委員会	13:30～ プラザ		
28	土	くるくる環境スクール⑦ バスツアー	9:30～16:00 京都里山SDGsラボ		
29	日				
30	月	休館日			
31	火				

10/7 10:00～11:30 講義室2
主担研究員 金子泰純先生
『吹田のごみの問題について』

は、資源リサイクルセンター(くるくるプラザ)の休館日です。●は、一般の方も参加できます。詳しくはプラザまで。

※予定は、変更する場合があります。